

平成 3 0 年度 学校版環境 ISO への取組 概要報告

管内	市町村	学校名
球磨	錦町	錦町立木上小学校

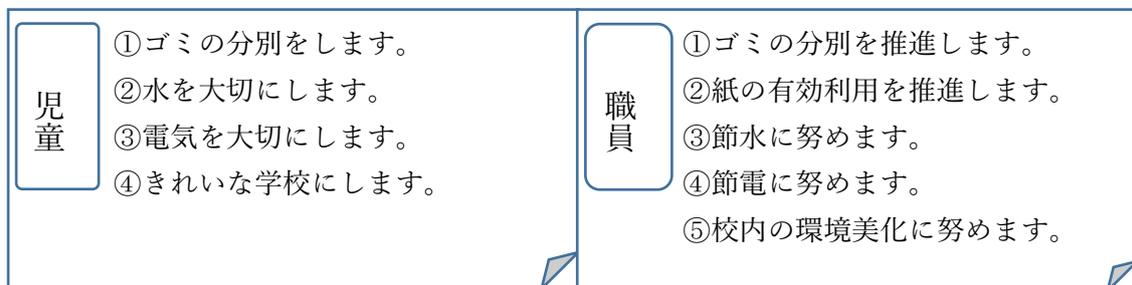
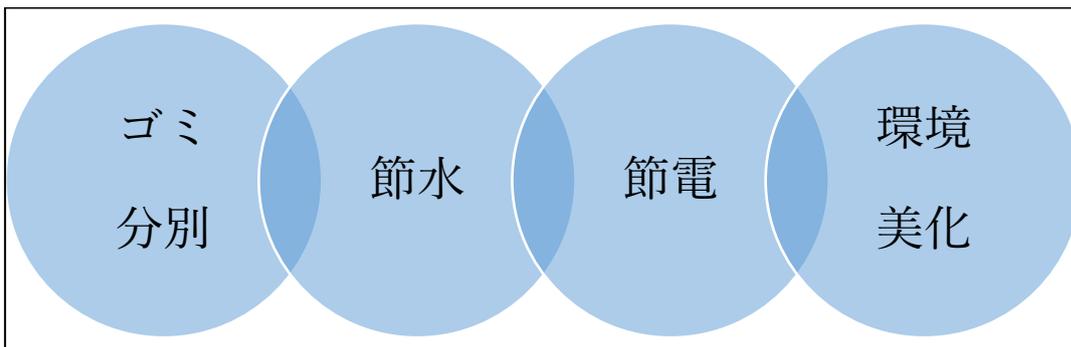
はじめに

本校は、熊本県南部の錦町にあり、三大急流のひとつ球磨川の北側に位置している。水田地帯や畑が広がっており、最近ではメロンやイチゴの栽培が盛んである。また、球磨川の堤防沿いは、熊本県が準絶滅危惧種に指定しているツクシイバラの群生地としても知られており、保護活動の一環として毎年たくさんのイベントが行われている。

豊かな自然に囲まれ、「夢を持ち、心豊かに、たくましく、自ら学ぶ木上っ子の育成」の教育目標のもと、環境のことを考える児童の育成を目指してきた。

1 宣言

学校版環境 ISO の取組における重点項目



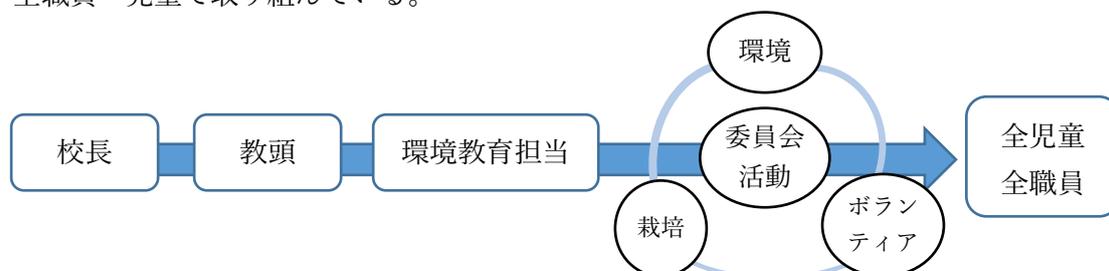
【数値目標】

- 毎月、燃えるゴミの袋は 10 袋以内にする。
- 電気使用量、昨年度比 5 % 減らす。

## 2 活動

### 【校内推進体制】

学校版環境 ISO 活動は、環境委員会、栽培委員会、ボランティア委員会が中心となり、全職員・児童で取り組んでいる。



### 具体的な取り組み

#### (1) ゴミの分別

燃えるゴミのゴミ箱とは別に、プラスチック専用のゴミ箱を設置し、牛乳のストローを包装しているビニールや工作で出たプラスチックゴミ等は、こちらに分別して捨てている。環境委員会でも燃えるゴミとプラスチックゴミに分けて回収を行っている。



【プラスチック専用ゴミ箱の設置】

#### (2) 紙の有効活用

昨年度に引き続き、教室にリサイクル用紙を入れるかごを設置し、児童のメモ用紙等で利用している。また、印刷室では、裏紙の利用ができるものは大きさ別に棚へ戻し、積極的な活用を行っている。また、両面使用した紙については、まとめて資源ゴミとして出している。



【サイズ別に利用できる裏紙の棚】



リサイクル用紙入れ  
○両面印刷済みの用紙は、この箱に入れる。  
○資源ゴミに出しやすいように、大きさ別に入れておく。



【リサイクル用紙を入れる箱】



### (3)節電・節水

節電について、教室を出るときには必ず消灯することの他に、冷暖房の使用規定等により節電に対する意識を高めるよう節電を促すマークを貼り付けて呼びかけている。また、歯磨きの時にはコップ、掃除の時はバケツを使用し、無駄な水を使わないようにし節水を心掛けています。衛生面と併せて、水が止まったことを確認できるように、蛇口を下に向けるようマークを貼り付けて呼びかけている。

【節電を促すマーク】

### (4)校内の環境美化

ボランティア委員会による「ボランティアサービス（VS）活動」では、毎週木曜日の始業前に全児童での校内美化活動を行っている。晴天時には、運動場を中心に各学年の花壇や校舎周辺の清掃を行い、雨天時には校舎内の窓ふきや棚の整理等に取り組んでいる。栽培委員会は、花の苗を植えるだけでなく、世話の仕方も呼びかけている。

また、PTAの協力を得て、年に2回、親子美化作業に取り組み、校舎内や校舎周辺の環境美化に努めている。PTAの協力により、児童だけではできないところまで、きれいにしていただいた。



【VS活動の様子】

## 3 活動の結果

5月から取り組んだゴミ袋の使用量調査では、数値目標としていた10袋以内に押さえることができた。毎週の放送等で、さらに全校児童への啓発を活発に行っていきたいと考えている。

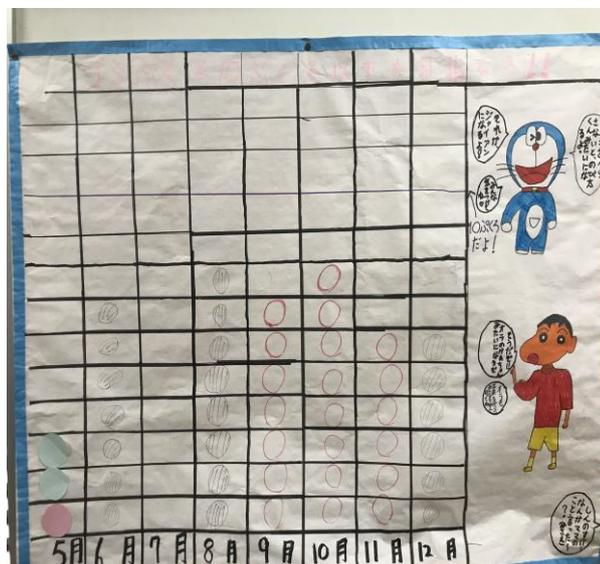
水道の蛇口が下に向いていることで、水が止まっていることの確認になった。さらに、節水マークを各水道に貼ることで、水の止め忘れや無駄な水を使わないことを意識することができるようになった。また、月に1回、全学年の水道の蛇口が下に向いているか確認をし、学年マッチ形式で取り組むことで、さらに意識をもって取り組んでいる。

節電については、昨年度からの取組もあり、教室を使用しない時には必ず消灯するようになってきている。今後も継続した取組を意識したい。

## 4 成果と課題

### ○成果

- ・環境委員会のゴミ回収の際に、ゴミ袋の使用量を意識したことで、ゴミ袋も無駄にできないことを理解することができた。また、校内に月ごとのゴミ袋の使用量を掲示し、全校児童に啓発することで、ゴミを意識して減らそうとする姿勢がみられ、その結果、数値目標を達成することができた。



【月ごとのゴミ袋使用量】

- ・節電に対する意識を高めるよう、節電を促すマークを貼り付けることで啓発ができた。
- ・係の仕事として、電気をこまめに消す電気係や水道の蛇口が下に向いているか確認する水道係を設置することで、節電・節水に対して、意識的に取り組むようになった。
- ・放送や掲示等で、全校児童・職員に啓発を行うことができた。具体的な電気代や水道代については、年度末に集計する予定である。今後はさらに具体的な数値を比較し、使用量の削減に努めたい。

### ○課題

- ・各委員会での活動は充実していたが、学校全体としての取組が十分ではなかった。活動したことを記録し、常に学校全体で共有していきたい。さらに児童・職員への啓発を行って、活動を広め、深めていかなければならないと感じた。

### ■おわりに

なぜ環境を守らなければならないのか。節電・節水・リサイクル・環境美化をしなければならないのは、なぜなのか。児童自身が理解し、行動していかなければ環境保全への意識の高揚や環境問題解決への実践力向上は望めない。児童・職員だけでなく、家庭・地域への啓発も行いながら、環境保全に目を向けることができるような児童を育てていきたい。